

岩手県立住田高等学校高校 第2・第3学年 地域創造学学習指導案

日時 令和3年9月29日(水)

授業②：11：40～12：30

場所 体育館

学級 第2学年26名

第3学年32名

授業者 佐藤 仁 他9名

1 単元名「地域を見つめる①」(第2学年)・「地域への貢献を考える①」(第3学年) 1次アクションの発表

2 単元について (第2学年)

(1) 題材について

昨年度は「地域を知る」ことに重点を置き、各自の設定テーマについてレポートを作成した。今年度は「すみハピ！」のプロジェクト名にあるとおり、地元地域へのつながりや貢献をより意識したテーマ設定に十分に時間をかけてきた。第4ステージからの継続・発展、あるいは全く新たな視点からの挑戦など、バラエティに富んだ探究が期待できる。

(2) 生徒について

生徒26名中6名が住田町在住で、下位ステージからの活動の積み上げや成長が随所に見られる。一方、学年全体の75%以上を占める住田町外からの通学生20名は、1学年の第4ステージから「地域創造学」の学びを始めた。当初は資料作成およびプレゼンテーションのスキルに個人差が大きかったが、「情報」など各教科とも連動し、徐々に全員が一定レベルの発表ができるようになってきた。

(3) 指導にあたって

7月の構想発表会では多くの助言や課題を得ることができた。それらが今回の1次アクションにしっかりと反映されているか、どのように「変化」したかを評価の面においては重視したい。また、今後の2次アクション、3次アクションにつなげられるような充実した発表会となることに期待したい。

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

	資質能力の分類	資質能力別の分類
社会的実践力	A【地域理解】	○住田町や近隣地域の現状と課題を知り、自分の関心に沿ってさらに理解を深めることができる。
	B【社会参画に関する資質能力】	○地域の現状と課題をふまえ、課題解決のための行動を考えることができる。
	C【人間関係形成に関する資質能力】	○地域の人々との対話を通じて、さまざまな考え方に気づき、他者と協働して活動することができる。
	D【自律的活動に関する資質能力】	○地域の課題を自分事として考え、その解決の方法を主体的に構想することができる。

(2) 評価規準

★汎用的スキル ★態度・意欲・学びの価値

資質能力		評価規準
A ◎地域理解		・住田町や近隣地域の現状と課題を知り、自分の関心に沿ってさらに理解を深めている。
B 社会参画に関する資質能力	1 ☆見通す力	・目標に向けて情報収集を行い、見通しを持って計画的に活動している。
	2 ☆多角的・多面的に考える力	・調べた情報や考えなどを分析して解釈し、より妥当な考えを取捨選択している。
	3 ☆提案・発信する力	・見た人に伝わるように、レイアウトや文章を工夫している。
	4 ☆好奇心・探究心	・調査内容や方法について積極的に意見を出し、主体的に調査活動を行っている。
	5 ☆困難を解決しようとする心	・活動が行き詰ったとき、原因を考え、改善して最後までやり遂げようとしている。
C 人間関係形成に関する資質能力	1 ☆伝え合う力	・調べたことや自分の考えが伝わるように、表現を工夫している。
	2 ☆協働する力	・集団の中での自分の役割を自覚し、互いに協力して活動している。
	3 ☆他者受容	・多様な他者の考えや価値観を受け入れ、広い視野でよりよいものを考えようとしている。
D 自律的活動に関する資質能力	1 ☆感じ取る力	・学んだことについて当事者意識を持ち、これからの自己の学びや活動への見通しを持っている。
	2 ☆創出する力	・課題解決の方法を主体的・創造的に考えている。
	3 ☆自己肯定感	・自分の良さや可能性に気づき、よりよいものを目指して取り組もうとしている。

4 単元の指導・評価計画 (本時 第19時/全19時間)

月	小単元名	プロセス	時	主な学習活動	関連する 教科・領域	評価項目 (評価方法)
4		問題の理解・自己理解	1	○地域創造学の確認 ・昨年度の活動を振りかえり、今年度「地域創造学」で目指すものを確認する。 ・住田町や近隣地域の課題解決につながる「すみハピ!プロジェクト2021」を実施することを理解する。	現社・政経 「地域の実情」 「公正な判断力」 「地方財政の現状」	・B1☆見通す力(観察)
			2	○自己理解と他者理解 ・地域創造学を学ぶ意義、グランドルールについて理解する。 ・「自分の好きを見つける」マインドマップを作成し、グループで共有する。	「地方自治の課題」 「地方自治制度と住民の権利」	・D3★自己肯定感(自己認識シート) ・C1☆伝え合う力(観察)
5		課題設定	2	○探究テーマの設定 ・自分の興味関心と住田町または近隣地域を結びつけるものを考える。 ・探究テーマを決める。	ホームルーム活動 「情報モラル講座」「進路学習」 「インターンシップ活動」	・A◎地域理解(観察) ・B2☆多角的・多面的に考える力(観察)
5 ┆ 6		研究の進め方の理解	2	○調査方法の理解と留意点の確認 ・調査方法の意義や方法について理解する。 ・先輩の事例を参考にする。 ・フィールドワークの方法や注意点について学ぶ。	「生徒会活動」 「生徒総会」 「ボランティアガイダンス」	・D1☆感じ取る力(ワークシート)
6		情報収集 計画	1	○1次アクション計画の考察 ・自分のテーマに基づき、仮説あるいは課題を設定する。 ・仮説の検証や課題の解決に向けたアクションを考える。 ・第1次アクション計画を立てる。	「国際理解(海外派遣報告)」等 国語科全般	・B1☆見通す力(観察) ・B4★好奇心・探究心(計画シート)
6 ┆ 7		発表会準備	2	○構想発表会に向けた準備 ・1次アクションに向けた構想の発表の準備を行う。	理科 「観察・実験・探究」	・B3☆提案・発信する力(成果物)
7		構想発表	1	○1次アクション計画の構想発表 ・構想発表会で自分の活動計画を発表する。 ・他の人の発表を聞いて、意見や感想を述べる。	英語全般 「コミュニケーション英語」・「英語表現」	・D2☆創出する力(成果物) ・C1☆伝え合う力(観察)

7 9	実施	3	○1次アクションの実施 ・仮説検証、課題解決のアクションを起こす。	保健 「現代社会と健康」 「健康を支える・環境づくり」 「安全な社会生活」	・B4★好奇心・探究心（観察） ・B5★困難を解決しようとする心（観察） ・C2☆協働する力（観察）
	振り返り	1	○1次アクションの振り返り ・1次アクションの検証をする。 ・仮説検証の結果から、課題・解決策を考える。 ・課題が解決の方向に進んでいるのかを振り返る。	体育 「ダンス」 「体育理論」	・A◎地域理解（観察） ・D2☆創出する力（観察）
	発表資料作成学習	1	○発表会に向けた学習 ・プレゼン資料作成の仕方のレクチャーを受ける。 ・質疑応答の仕方について学ぶ。	数学Ⅱ 「論証・証明」 音ⅡⅢ 「表現・鑑賞・創作・歌唱」	・C1☆伝え合う力（ループリック） ・C3★他者受容（観察）
	発表準備	2	○1次アクション発表の準備 ・アクション結果発表に向けた資料を作成する。	「混声合唱」「アンサンブル」	・B3☆提案・発信する力（成果物）
	アクション発表	1	○1次アクションの発表 ・アクション結果を発表する。 ・他の人の発表を聞き、アドバイスをする。	商業 「情報モラルと社会ルール」 「プレゼン」等	・C1☆伝え合う力（ループリック） ・C3★他者受容（観察）

※高校では、生徒が各テーマを設定して取り組む探究的な学習となるため、小単元の記載を省略した。

5 本時の指導

(1) 目標

構想発表会の反省を踏まえた1次アクションの実践結果について、他者にわかりやすく説明する。また、聴衆者としての気付きや意見を述べる。

【C1 人間関係形成に関する資質能力 ☆ 伝え合う力 ★ 他者受容】

(2) 評価について

◎ 本時のルーブリック(第19時)

パフォーマンス課題		1次アクションに関する発表及び意見のやりとり
みとる資質・能力		C 1人間関係形成に関する資質・能力 ☆伝え合う力
パフォーマンスの特徴	A	<ul style="list-style-type: none"> ・1次アクションに関する発表内容を、よく分かりやすくまとめ、調査活動や検証における考察などについて、他者に十分伝わるように発表の仕方や表現に工夫をしている。 ・発表者の表現や発表内容と捉えた気付きや意見を適切に述べている。
	B	<ul style="list-style-type: none"> ・1次アクションに関する発表内容を簡単にまとめ、調査活動などについて、他者に伝わるように表現している。 ・発表を聴き感じたことを述べている。
	C (支援の手立て)	<ul style="list-style-type: none"> ・1次アクションに関する調査活動や工夫点などを具体的にまとめさせ、発表内容の再考の手助けをする。

(3) 展開

段階	学習内容・学習活動	・指導上の留意点 ◆評価
導入 5分	1 本時の進め方の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・時間や進め方などを確認する。 司会者・記録者と事前に打合せ、円滑な進行を心がける。
	2 本時の発表会(課題)の確認	
展開 35分	課題 構想発表会の反省を踏まえた1次アクションの実践結果について、他者にわかりやすく説明する。また、聴衆者としての気付きや意見を述べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・発表者が物怖じせず明朗な声で発表し、また聴衆者が質問できるようにチューターは各グループを巡回し、配慮する。 ・質疑応答が活発に為されるように配慮し、考察・記入の時間を十分に確保する。 ◆生徒各自が調査研究しまとめた内容を、聴衆者に対して分かりやすく表現に工夫しながら、発表している。 ◆聴衆者としての気付きや意見を述べている。 【①ワークシートによる自己評価②付箋メモによる他者評価に基づくチューターの総合的評価】
	3 発表・質疑応答 4組(2年:3組、3年:1組)×2ブース ※インターバル1分 8分(発表:3分、質疑応答:3分) 付箋メモ記入および貼り付け:2分 発表者 1次アクションの実践結果について聴衆者に分かりやすく説明する。 聴衆者 メモを取りながら、発表を聞き、感想・質問・意見を述べる。 感想や改善案を付箋メモに記入し、発表者に伝える。	
まとめ 10分	4 記録者より 各ブースの様子や質疑応答の内容をまとめ、全体で共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・端的で分かりやすい説明を促し、聴く姿勢も意識させる。 ・本時の活動を振り返り、課題と評価項目を確認しながら自己評価を行う。 ・次時の学習活動内容を説明する。
	5 本時の振り返りと次時の確認 自己評価シートへの記入	

